

令和8年度「釜石市働く婦人の家運営委員会」開催結果(概要)

1 開催日時

令和8年6月10日(水) 午前10時26分から11時45分まで

2 開催場所

釜石市働く婦人の家 2階 第三講習室

3 出席者

- | | | | |
|----------|---|------------------|-----|
| (1) 出席委員 | (1号委員) | 阿部津子、木下佳子、植田貴美子 | |
| | (2号委員) | 坂本由加 | |
| | (3号委員) | 昆 智恵子、正木隆司、佐久間定樹 | |
| | (4号委員) | 小原克巳、鈴木 忠 | 計9名 |
| (2) 欠席委員 | 金野恭子(2号委員)、三上佳月(2号委員) | | |
| (3) 事務局 | 働く婦人の家 大瀧忠和館長(商工観光課長)
橋本英章館長補佐、佐々木智代館員 | | |

4 経過

下記の次第に従って大瀧館長が司会進行を務めた。(4)協議事項の②からは、会長に選出された委員が議長となって会議を進めた。

- (1) 開会
- (2) 館長挨拶
- (3) 委員・職員紹介
- (4) 協議事項
 - ①会長及び副会長の互選
 - ②令和7年度業務概要について
 - ③令和8年度釜石市働く婦人の家運営方針等について
 - ④その他
- (5) 閉会

5 結果

①会長及び副会長の互選

委員の互選の結果、会長には正木隆司委員、副会長には木下佳子委員が選出された。

②令和7年度業務概要について

承認された。なお、委員からの主な意見・質問等は次のとおり。

【委員】 7年度の利用者は高齢化のため減少したとのことだが、これは同じ人が利用しており新規の利用者が無かったということか。

〔事務局〕 新しいグループが設置され、既存のグループでも新規の加入者があるのでそういうことはない。高齢化に伴って通いづらくなった、動くのが大変だ、家庭の事情で来られなくなったなどが大きな理由のようだ。

【委員】 年齢別の利用者が、60歳以上が83.3%で令和6年度も同じくらいだったとのことだが、この傾向はだんだん高まっているのか、それとも昔から同じくらいの割合

なのか。

〔事務局〕 集計方法が 60 歳以上をひとくくりにしており、これを 70 歳以上、80 歳以上などにさらに細分化すれば違ってくるのかもしれないが、60 歳以上全員としてみればそんなに変わっていないと思う。

ただし利用者のなかには 90 代もいるし 80 代も多くいる。年々同じ 60 歳以上のくくりのなかで年齢構成が上がっていると思う。

【委員】 定期講座の受講希望者が早く埋まってしまうとのことだが、受講者は毎回同じ方が多いのか、やはりリピーターが多いのか。

〔事務局〕 ここ 2、3 年は新規の方も 2～3 割くらいに増えてきているが、やはりリピーターが多い。メニューを決めるのにいつも苦労している。飽きないように、また受けたいと思うような講座を開催したいと考えており、講座の先生方とも相談しながら進めている。

【委員】 卓球やトールペイントの活動をしているが、卓球の方ではやはり高齢化は進んでいる。椅子を並べておいて疲れたらいつでも休憩するという形で自分のペースでやれるようにしている。

トールペイントの方は、2 階の部屋でやっているが、去年の夏からはエアコンを使えるようになり快適に楽しくやっている。

【委員】 先ほどの年齢別利用者の高齢化の件は、60 歳以下が少ないというのは当たり前前で、その年代は働いているので夜間しか利用できないと思う。

昼の活動は特に問題はないと思っているが、夜間の利用がもっとできるように予算を増やしてもらえればよいと思う。

〔事務局〕 夜間の予算が足りないというのは、夜間はシルバー人材センターの会員に勤務を委託しており、人件費は毎年上がっており、同じ予算額でも勤務できる時間数が減ってしまう。財政担当には事情を説明してなんとか予算を付けてもらっている状況である。

既存の自主グループの年間活動計画は前年度の 2 月頃に決定し、夜間の新規利用者についてはその後の追加となるので予算が不足することになってしまう。

予算要求の時期に新規の利用がわかれば、それを上乗せして予算要求できるが、新年度になってから活動したいというケースがほとんどなので、利用希望時期と予算要求時期のずれが支障になっている。

【委員】 編み物とパッチワークのグループに所属している。編み物の方は、去年の 12 月に講師が亡くなったため今後について会員で話し合った結果、講師がいなくてもやろうとなり継続してやっている。これから新しい会員を増やしたいが、講師がいなくてどのように進めていけば良いのか思案中である。

パッチワークについては、始めた頃よりは会員は増えている。講師の努力もあると思うが、現状は良い方向に向かっている。ただし年齢はやはり 60、70、80 代である。

③令和 8 年度釜石市働く婦人の家運営方針等について

承認された。なお、委員からの主な意見・質問等は次のとおり。

【委員】 前期の定期講座について、最近は何でも値段が上がっているが、受講料も上がっているのか、それとも料金を抑えているか。そして、このようにやっても大丈夫なのか。

〔事務局〕 講師への講師料は当館から支払いし、材料費だけを受講者の方々に負担してもらって当日に講師に手渡している。もちろん講師が赤字になるような講座はお願いできないし、材料費が余るようなことも駄目なので、材料費の中でちょうど納まるようにやってもらっている。

金額は、これまでは 1,000 円くらいで設定していたが、最近は物価が上がっているが、2,000 円前後とすると高すぎて参加者が来なくなるので、あまり高くない 1,200 円くらいでやっている。

【委員】 定期講座のメニューを決めるのは参加者のアンケートや意見を参考にしているのか。

〔事務局〕 参加者は同じ人が多いので、アンケートには同じような内容が書かれている。講座を申し込む人は、講座案内に書かれている内容だけで判断しているので、なるべくキャッチコピーなど見ただけで飛びつきたいような講座内容を目指しており、それでいつも苦労している。

市民の好みや世の中の動きも見つつ、できる範囲内で、そして高齢者が多いので高齢者の方が好みそうなものも考慮して実施している。ここ何年かは団子などの昔からのお菓子の講座を開催するようにしており、人気があって定員がすぐに埋まってしまう状況である。

【委員】 それでは前期の定期講座についてはほとんど定員いっぱいということか。

〔事務局〕 講座の受付開始の日は申し込みが凄い。電話が 1 本しかないので鳴りっぱなしで人気の講座は 30～40 分で埋まってしまう。少しずつ埋まっていく講座もあるが、ここ何年かはすぐ埋まってしまう。

【委員】 以前はこの料理講座に参加したり、トールペイントやエアロビのグループに所属して通っていたりしていたので、ここはすごく思い入れがある施設である。

しかし、様々な課題もあることがわかった。その課題に対してどう対応していくのか、私もまだ勉強不足であるが、その先が少し見えにくかったと感じた。

高齢化なので仕方ないとか、講座は毎回同じ人で埋まってしまうということであれば、広く皆さんに講座などを周知するというのが課題に繋がっていくのかなと少し疑問に思う部分もあった。

この施設を多くの人に利用してもらいたいのか、講座を開催してその定員数だけ来てもらえばいいのか、この先この施設をどう管理していくのかなと思った。

これからの方向性を教えてもらいたい。

〔事務局〕 高齢化については、先ほど別の委員が言われたとおり、平日は若い方は仕事をしているためここには来られないので高齢化はしかたないというのが現実である。

今後の方向性については、実は市役所では令和元年頃に公共施設の見直しを始めたが、この施設もどうするかという話が出た。一方でこの地区には老朽化している小佐野コミュニティ会館があり建て替えが必要だということになっていた。

働く婦人の家も築 40 年以上経過しており、利用形態も公民館的に利用されているので、両方を統合して施設を建替えようという計画になった。

計画では、基本的にはここを廃止して、小佐野コミュニティ会館で実施している小佐野公民館の事業に当館でこれまでやってきた事業や活動を統合し、新しい施設で実施していくという話が進んでいたが、現在は諸事情により計画が中断となっている状況になっている。

方向性については、最終的には、市の財政状況や利用状況を考えれば計画のような方向になると思うが、今は計画が中断となった状態であり、当館の利用者も少ないわけでもないことから、当面は従前のおり運営していくという方針である。

しかし、当館の年間利用者数は、コロナ感染症流行前は1万人を超えていたが、コロナ以降はコロナ感染症対策、人口減少、高齢化が進んで7千人程度に減少しているなかで、もっと利用を促進・拡大していくためには、費用も多く必要になるので、なかなか難しい部分ではある。

そういうなかで、まずは現在利用している方々が、ちゃんと引き続き利用していただけるようにすることが優先的なことだと考えている。

ただし、ここは市の公の施設であり税金で運営している施設なので、できるだけ有効利用する必要がある、やはりもっと利用者を増やしていく必要はあるとも思っている。

【委員】 使用料はどうなっているのか。

〔事務局〕 この施設は無料である。使い勝手が良く無料で利用しやすいので、駐車場は狭いが多くの方々に利用していただいている。

【委員】 ここは運動場もあるし、施設としては充実していると思う。

新たに予算をかけて利用者を増やしていくとなると、夜間の利用には予算が必要になってくるが、例えば平日の日中の時間帯に、企業の会議の場としての利用や、学校の長期休暇の間には子ども達が集まって運動場で体操をやるとか宿題をやるなどの子ども向けの利用も良いのかなと思う。

また今はクマ被害が多くなっているが、遠野市では廃校になった学校の体育館を無料開放して室内で安全にウォーキングをしてもらっているという話も聞いている。

このような利用のしかたもあり、予算をかけないでもやれることが、まだまだあるのではないかなと思う。

〔事務局〕 この施設はいつまで続くかわからないが、数年だけではなく当面は続くと思う。そのなかでこれまでとは違った利用のしかた、使ってもらい方を検討していきたいと思う。

ただし、今日は午後からの利用はないが、2月頃には23の自主グループが翌年度の年間計画を提出して事務局で調整のうえ全体の1年間の利用日程を決めているので、新たに空いている時間を見つけるのが大変な状況である。その辺の調整が必要になってくると思う。

【委員】 ネットでもホームページでも良いので空き具合を一目でわかるようになれば良いと思う。借りたくなかったときに明日ならここが空いているとかが分かれば良いと思う。

〔事務局〕 ホームページなら費用もかからないし、今の時代はそのようなやり方も考えなければならないと思う。

【委員】 先月も定期講座の講師をしたが、定員20名のところ14名の参加があり毎回元気な方々に参加してもらい、すごく良い時間を過ごしていると思っている。

8年度資料の「地域別自主グループ会員数調べ」が面白いと思った。唐丹の人は小川まで行くのは遠いという感覚があるので利用者は2名だけかと思う一方で、鶴住居地区の方が8名も参加していることにびっくりした。8名は多いなと思った。

この鶴住居地区の方々はどうようなグループで活動しているのか。

〔事務局〕 文化系である。パッチワークのグループも鶴住居地区から2名来ている。

【委員】 わざわざ鶴住居方面から来る理由について、講座や自主グループ活動に何か魅力があるのかと思った。

〔事務局〕 パッチワークのグループは、80代の方2人が車に乗り合いして通っている。高齢ドライバーなので心配ではあるが、バスでの通いは無理なので車で来ている。

【委員】 とても良いと思う。体育協会でもいろいろやっているが、やはり足(交通手段)の確保が課題になっている。例えば平田野球場の管理棟で何かをやろうとしても来られない人も多い中で、この参加人数はすごいなと思った。

また、資料のバウンドテニスのグループの中に、過去に多く全国大会に行っている方がおり、ここから全国に参加できる選手もいるのかと思った。ここの活動もあってそういう結果なのかと思った。

先ほど施設の空き情報を見られると良いという話があった。体育協会でも体育館の管理をしているが、体育館の争奪戦が凄い。空いている日・時間の問い合わせも多いが、お断りすることが多くある。中妻体育館、嬉石交流センター、市民体育館はネットで空き情報を見ることができるが、それでも問い合わせをしてくる。体育協会の管理施設に空きがない場合にはこの施設も一緒に空き状況を見られるようになれば良いと思う。

一番問い合わせが多いのは卓球をやりたいという問い合わせである。卓球台が1台あれば良いという希望もあるが、例えば予約内容がバスケットボールであれば卓球台1台でも利用できない。それでお断りする場合が結構ある。なお、利用希望は昼である。

〔事務局〕 卓球であれば火曜日の午後ならばちょうど良い。午前と夜に卓球のグループが入っているので午後は空いているが、卓球台はそのままなのでちょうど良い。

しかし、それも空き状況がわからなければわからないことではある。

【委員】 その状況は、今、初めて知った。今後は卓球の問い合わせがあった場合には、働く婦人の家も使えるようなのでと案内することもできる。

〔事務局〕 よろしくお願ひしたい。

【委員】 ハローワークの状況も踏まえてお話ししたい。

現在のハローワークに来ている方、いわゆる登録者は、4月末時点では65歳以上の方が47%で約5割という状況である。実は若い方は非常に少なく、窓口に来る65歳以上の高齢者の方々は非常に元気な方が多く、仕事を目指して頑張っているのも素晴らしいなと思っている。

今はその方々が頑張っているが、この先には2030年、2040年問題というのがある。それは今頑張っている方々が引退していくのでその後はどうするかという問題である。

したがってこの働く婦人の家の活動が、仕事を引退したあとのやりがいはこちらに求めるといふ非常に大切な存在であると思っている。

今回、ここのグループ活動が頑張っていることを改めて勉強したので、仕事でのやりがいからグループ活動でのやりがいに移行してもらうことで、この施設の利用者数も

増えていくのではないかと感じた。

【委員】 今日、働く婦人の家の活動内容を聞いて、限られた予算や資源のなかで良い取り組みをしているのだなと感じた。ここは女性の方々の拠点となっていくので、そのような活動をこれからも続けていければ良いのかなと思う。

これまでの話の中では、高齢化とかの環境の変化も出てきており、その変化等に対応していく必要もあるのかなと感じた。

体育協会から話があった施設の連携については、できる部分でやっていくとお互いに施設の有効活用ができるので、そういうことも含めながら検討していけば、良い活動につながるのではないかと感じた。

以 上